

“MY TOWN” うおっちゃん

歩キ目デス & 足ラテス

Vol.45

レクイエム 『旧野村警察署講武館』

タウンツーリズム講座主宰・
ヘリテージマネージャー

岡崎 直司

この7月に解体されてしまった建物がある。西予市野村町にあった旧野村警察署講武館である。県内では数少ない武徳殿建築で、南予では唯一現存していた建物。戦後の改造により、町中では全く目立たない建築物になっていたので、地元でも殆ど誰も気に留めるものでは無かった。そもそもこうした歴史的建造物にとっては、とても大切な建築年すら、あまりハッキリとはしていなかった。

しかし、昨年3月に実施された市文化財保護審議委員会による棟札調査の際には、それ自体は発見出来なかったが、写真の墨書が見つかった。

梁には、「作人 東宇和郡野村町 昭和九年十二月十五日 大本民次郎」とあり、斜材の方にも「大工 野村町 東

トラス構造



本棟のセメント瓦と懸魚けぎょ



梁に書かれた棟梁の墨書

大本民次郎」と書かれていた。その後の調査で、地元で建設業を営む方の祖父であることも判明。明治21年生まれで46歳の頃の仕事であるらしい。

その際の聞き取りによると、地元で剣道の指導に当たっていた佐藤寅吉氏という人物が、中村栄行野村警察署長と共に尽力し、野村警察署講武館として建設された。当時の警察医でもあり、代々地域医療に貢献していた菊山家からの寄付など、佐藤氏は野村・城川を中心に寄付集めにも奔走した。

やがて、地域の武道振興に貢献した講武館ではあったが、戦後になり野村警察署が昭和34年に現在地に移転、それに伴い町五区（新町、本町1〜3丁目、愛宕）の公会堂として転用されることに。時代の変遷に翻弄され、武道場から集会所へと、言わば使用外目的の物件になってしまった。次第に各区に集会所が整備されてゆくにつれて、近年は本町二丁目集会所としての余生を送っていた。

建物をみてみよう。元々、武道場としての使用目的なので、平面は単純な入母屋屋根の建築。本来の武徳殿スタイルからすれば、屋根にセメント瓦が使用されていることと、外壁デザインには洗い出しのアーチが施され、洋風装飾であることが珍しい。現在、県内に残っている同様の建物に、新居浜と西条の各武徳殿があるが、いずれもガラス窓以外は純粹に

和瓦と和風意匠の建築。何故、野村の講武館が和洋折衷の外観デザインになったのかは分からないが、およそ武道の鍛錬の場としての様式を考えると、こうした自由な発想もあつたことがナンダカ楽しい。

その屋根に乗るセメント瓦だが、それまでの土焼き瓦と違い、屋根瓦の近代化という視点で見れば、当時、初期の建築素材では無かったか。焼くのではなく、セメントで型取りをして量産する新製品としての瓦の登場。どこの製品かは不明だが、公的な建物に葺かれた新素材の大屋根。戦後あれほど安価な住宅の屋根材として当たり前使用され、地方の地瓦屋が廃業に追い込まれたほどの素材が、今では全く流行らなくなったこの時代変化を考えると、意外に短かったセメント瓦の歴史に想いが及ぶ。

さて、棟瓦には「武」の字が誇らしげに刻まれている。屋根に上がってよくよく見れば、薄く緑色の痕跡が確認できる。果たしてイメージとしては瑠璃瓦を模したもので無かったか。万葉集に「青丹よし 奈良の都は咲く花の におふがごとく 今盛りなり」という歌がある。この中で「青丹よし」は奈良の枕詞で解釈は諸説あるようだが、「青」は緑色、「丹」は神社などの鮮やかな朱色、そうした釉薬瓦の彩り豊かな都の情景を歌っているとすれば、事実テッペンの大棟には、ポ



講武館立面図



鴟尾の形と洋風の壁面



本町2丁目集会所外観



天井の換気口意匠

ピュラーな鯰鉾ではなく「鴟尾」の形が乗っている。これは、飛鳥時代に中国から伝わった形で、例えば奈良東大寺の大仏殿に乗っているのと同様な種類。建設当初の情景は想像の域を出ないが、他に大きな建物が無かった昭和初期に、緑色の屋根をした大きな建物が忽然と現れたら、皆驚いたことだろう。この建物を当時設計したデザインコンセプトはどういう構想であつたのか、実に興味深いものがある。

また、内部は柱が一本も無い大空間で、盛時には武道鍛錬の気合横溢した声が満ち満ちていたことだろう。屋根裏のトラス構造がこの空間を支えている。かつては、玉座と呼ばれた床の間が入り口の正面(東側)にあり、講武館としての威厳を象徴していたが、いつの頃から集会所のための座布団収納に変わっていた。天井には、換気口デザインの装飾があり目を引く。

こうした70年余りの変遷を生き抜いた、得難い歴史建造物ではあつたが、集会所の改築という地域需要によって姿を消すこととなり、解体に先駆けて実測調査をすることとなった。地域の歴史記録の観点から、図面作成のボランティアに協力頂いた宇和島の酒井純孝氏、松山建築業の会の三好鉄巳氏ほかの方々には、紙面をお借りして特にお礼を述べたい。